

備前市事務事業評価表

(平成17年度事業)

事務事業名	排水設備検査事務	コード	担当課係	下水道課維持管理係
		01-01-10-12	担当者	瀬尾茂樹
事業実施期間	昭和57年～		電話	66-9701
総合計画 事業（政策）体系	大項目	安全で快適に暮らせるまちづくり		
	中項目	生活しやすいまちづくり		
	小項目	下水道		
	施策	適正な維持管理		

事業について	
目的	安心して使用できる排水設備による、衛生的で快適な生活。
対象（誰のために）	下水道、農業集落排水施設及び漁業集落排水施設に接続して汚水を処理しようとする人。
内容	排水設備工事申請書の施工方法等を書類により審査し、基準に適合の場合は工事許可書を発行。工事終了後、提出された排水設備完工届の書類検査と設置場所での現地検査を行なう。現地検査後、使用者に排水設備の使用・維持管理方法を説明する。

事業の結果				
実施項目	17年度			
	回数など	回数など	回数など	回数など
	(単位)	(単位)	(単位)	(単位)
排水設備検査件数	335 件			
排水設備不適合件数	13 件			

事業費 (単位：千円)	事業費		財源		事業費		財源	
	直接事業費	0	国庫補助金等	0	直接事業費		国庫補助金等	
	人件費	7,875	受益者負担	0	人件費		受益者負担	
	合計	7,875	市債	0	合計	0	市債	0

必要人員	1.20	人		人
結果指標名	排水設備検査件数			
結果指標量	335			
単位	件			
対前年比	—			
事業費	7,875,000	円		円
単当たりコスト①	23,516	円		円

結果指標名	排水設備不適合件数			
結果指標量	13			
単位	件			
対前年比	—			
事業費	—	円		円
単当たりコスト②	—	円		円

事業の成果			
成果指標名	完工検査改修率	式又は説明	設置基準不適合件数÷排水設備完工件数×100
成果指標量	17年度		
	4%		
対前年比	—		0.00%
到達目標値	0%	到達目標年度	平成21年度

事務事業の評価		課題認識
目的・対象・内容の妥当性評価	目的の妥当性	適切な施工方法や維持管理方法の徹底は排水設備を管理していくうえで必要なものであり目的は妥当である。
	対象の妥当性	
	市民ニーズの妥当性	
効率性の評価	市民ニーズの妥当性	排水設備申請件数が増加すれば1件あたりのコストが削減できる。
	市の関与の妥当性	
	コストの効率化	
有効性の評価	市民関与の妥当性	下水道協会岡山支部と連携し責任技術者（排水設備工事施工者）の技術レベルの向上と排水設備設置基準の周知を図る必要がある。
	手段の最適化	
	職場の効率化	
総合評価	目的達成度	評価区分 <A~E> C
	成果向上の可能性	
	市民参画度	

事業の目的、対象、内容を考えながら目的の妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

コメント	安心して使用できる排水設備とするため、下水道協会岡山支部と連携し責任技術者の技術レベルの向上と排水設備設置基準の周知を図る一方で、各接続者にも維持管理方法（清掃方法や流してはいけないもの等）の周知を図る必要がある。	評価区分 <A~E> C
------	---	--------------------

今後の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する（行政資源を集中的に投入する） <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する <input type="checkbox"/> 完了・統合	
翌年度結果指標量①	365	結果指標量②	11
目標値	成果指標量	3%	

改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
有効性	責任技術者の技術向上と設置基準の周知及び接続者への維持管理方法の周知	H18～	安心して使用できる排水設備